（7）オムスク出血熱 ……四類感染症

Omsk hemorrhagic fever : OHF

感染経路
節足動物媒介感染
マダニの刺咬、マスクラットの尿、血液との接触

病原体（ウイルス）
オムスク出血熱ウイルス
Omsk hemorrhagic fever virus

疫学的特徴
シベリア西部オムスク地方に局在するダニ媒介性ウイルス性出血Kurgan、Tyumen、Novosibirsk Oblasts での流行も報告されている。

潜伏期
3～8日

症　状
突然の発熱、頭痛、筋肉痛、咳、消化器症状、出血傾向、髄膜炎、腎機能障害、肺炎

医　療　機　関
★診断のポイント★
初期症状
・発熱
・頭痛
・筋肉痛
・咳
・消化器症状
・まれに出血熱

30～50%に二相性の発熱を認め第二期には髄膜炎、腎機能障害、肺炎を生じる。

感染症法第12条
届出（直ちに）
最寄りの保健所

治療
有効な抗ウイルスは開発されていないので、対症療法が中心

検査
■検査材料：血液、髄液
（1）分離・同定による病原体（ウイルス）の検出
（2）PCR 法による病原体（ウイルス）の遺伝子の検出
■検査材料：血清、髄液
（3）IgM 抗体の検出
■検査材料：血清
（4）中和試験による抗体の検出（ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）

届出基準
診察あるいは検案した医師の判断により、
ア　患者（確定例）
　症状や所見からオムスク出血熱が疑われ、上記検査によって確定診断がなされたもの。
イ　無症状病原体保有者
　臨床的特徴は呈していないが、上記検査により、病原体診断がなされたもの。
ウ　感染症死亡者の死体
　症状や所見からオムスク出血熱が疑われ、上記の検査によって病原体の診断がなされたもの。
エ　感染症死亡疑い者の死体
　症状、所見からオムスク出血熱で死亡したと疑われるもの。

上記の場合は、感染症法第 12 条第 1 項の規定による届出を直ちに行わければならない。

参考図書

（1）CDC. Omsk Hemorrhagic Fever. https://www.cdc.gov/vhf/omsk/index.html
（2）Lani R et al. Tick-borne viruses: a review from the perspective of Therapeutic approaches. Ticks Tick Borne Dis. 2014, 5(5):457-65
（3）Omsk hemoorhagic fever virus. MATERIAL SAFETY DATA SHEET, Public Health Agency of Canada　http://www.phac-aspc.gc.ca/msds-ftss/msds91e.html

発生状況
シベリア西部オムスク地方に局在するダニ媒介性ウイルス性出血熱である。Kurgan、Tyumen、Novosibirsk Oblasts での流行も報告されている。マスクラット（齧歯類）捕獲者に多発が認められる。近年は報告がない。

臨床症状
突然の発熱、頭痛、上下肢の筋肉痛、虚脱感、咳、消化器症状を生じ、まれに出血熱となる。患者の 30～50%は二相性の発熱を示し、第二期には髄膜炎、腎機能障害、肺炎などを生じる。致死率は 0.5～3%。難聴、脱毛、精神神経障害などの後遺症を残すことがある。

検査所見
採取すべき検体：血液、髄液
分離・同定でウイルスを検出する。
PCR 法によるウイルス遺伝子の検出。
IgM 抗体の検出。
血清より中和抗体の検出。

病原体
フラビウイルス科フラビウイルス属オムスク出血熱ウイルス (Omsk hemorrhagic fever virus)

感染経路
マダニとマスクラット（齧歯類）との間で感染環が維持されている。マダニによる刺咬により感染するが、齧歯類の排泄物、血液への接触感染もありうる。実験室内での感染報告がある。

潜伏期
3～8日

行政対応
診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

拡大防止
マダニの刺咬、マスクラットの尿、血液との接触を避けるようにする。

治療方針
有効な抗ウイルス薬は開発されていないので、対症療法が中心となる。致死率は 0.5～3%である。